

## 徳島の海を未来へつなぐ ～漁業調査船の新船建造が始まりました～

課長 山本 浩二

Key word ; 漁業調査船, 海洋観測, 水産資源調査

---

### はじめに

徳島県水産研究課では、県内の漁業や養殖業を支えるため、海洋観測や水産資源調査、赤潮・貝毒監視など、さまざまな調査研究を行っています。そのなかでも、海に出て行う調査観測を効率的に実施するため、漁業調査船「とくしま」(80 トン) を有しております。

このたび、水産研究課では現船の老朽化に伴い新たな漁業調査船の建造に着手しました。令和 10 年(2028 年) 2 月の完成を目指し、現在、造船所において建造準備が進められています。

本稿では、新船建造の背景や新しい漁業調査船に期待される役割について紹介します。

### 漁業調査船は「海健康診断を行う船」

海の状態を知るためには、定期的に海へ出て観測や調査を行う必要があります。水産研究課では、漁業調査船を用いて、水深別の海水温や塩分の観測、プランクトンや資源調査を行っています。これらの調査結果は、漁業者への情報提供や資源管理、さらには、県民の皆さまが安心して県産水産物を利用、味わうことができるための支え、基礎資料となっています。言わば、漁業調査船は「徳島の海健康診断を行う船」ともいえる存在です。

### 老朽化する現有船

現在運航している漁業調査船(写真 1)は、平成 12 年(2000 年) 2 月の建造以来、長年にわたり徳島県の海を見守ってきました。これまで、紀伊水道、播磨灘、太平洋沿岸で数多くの調査を実施し、徳島県の海の状態を継続的に観測し、その変化を見守ってまいりました。

しかし、船舶も自動車と同じように年数が経過すると老朽化が進みます。近年は、修繕費の増加、機器類の更新、維持管理コストの増大などが課題となっています。将来にわたり安定して調査観測を継続するためには、新しい漁業調査船への更新が必要不可欠です。



写真 1 現在運航している漁業調査船「とくしま」(80 トン)

### 気候変動時代の海を見守る

近年、徳島県周辺の海ではさまざまな変化が起こっています。例えば、海水温上昇、藻場の変化、漁獲される魚種の変化、赤潮発生状況の変化などです。

こうした変化を正確に把握するためには、継続的な海洋観測が欠かせません。海の変化は、10年、20年、30年という長い時間をかけて観測を続けることで初めて見えてくるものがあります。新しい漁業調査船は、これからの本県海域の環境変化を見守っていくという非常に重要な役割を担っております。

### 新船に期待される新たな機能

新しい漁業調査船には、最新の観測機器や航海機器が搭載される予定です。例えば、高性能グラフ魚探、CTD（電気伝導度・水温・水深計）、ADCP（音響ドップラー流向流速計）、マルチビームソナー（複数の音波を扇状に発射して、海底の地形や状況を広い範囲で立体的に把握できる観測機器）、高精度GPS、衛星通信設備などです。さらに、船を走らせながら海水中の栄養塩濃度を測定し、その結果をほぼリアルタイムで把握できる設備も導入されます。これにより、水面下の流れの見える化や、海底地形・資源分布、魚礁や藻場の状況、魚群情報などを、より迅速かつ分かりやすく把握できるようになります。

これらの情報は、延縄や船曳網、定置網、底びき網、釣り、藻類養殖など、さまざまな漁業において操業判断の支援や作業の効率化につながるほか、安全で持続可能な漁業の推進にも寄与することが期待されます。

こうした機能の充実により、調査研究の高度化とともに、現場への一層きめ細かな情報提供が可能となります。

### 未来の徳島の海のために

海洋環境や漁業を取り巻く状況は大きく変化しています。このような時代だからこそ、正確なデータを継続的に収集し、科学的な知見に基づいて海を理解することがますます重要になっています。

新しい漁業調査船は、単なる「船」ではありません。それは、徳島の海の未来を支える研究基盤であり、県民共有の財産です。

水産研究課では、新しい漁業調査船を活用しながら、今後も徳島の海と水産業を支える調査研究を続けてまいります。

県民の皆さまにも、今後の調査活動や研究成果にぜひご注目いただければ幸いです。